

第1分科会

「労働と発達を考える」

共同研究者 社会福祉法人 皆の郷 川越いもの子作業所
施設長 大畠 宗宏
助言者 東京都聴覚障害者連盟 災害対策部長
荒井 康善
司会者 社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会後援会
石川 滋一
いこいの村・栗の木寮 山内 壮

1. はじめに

当分科会には、参加者9名（施設職員、就労継続支援事業所B型職員、聴障協、利用者の家族）の方々に参加していただきました。レポートは3本、2日間に分けて報告、質疑応答、討議を行いました。

2. レポート報告

(1) たましろの郷（東京）の三浦さんより「なかまのやりがいに繋げる創作活動」というテーマで、作業内容の工夫と班編成の見直しをはかり実践された事例の報告をいただきました。作業内容は造形活動（陶芸）から創作活動に変わり、本人の好きな事や得意な事を作業に取り入れることで働くことのやりがいに繋がりました。

班編成では年齢や人数的に一つのグループでは限界を感じ小グループ化を実施したところ、仲間や職員にとっても働きやすい環境になったという成果が出ました。一方で仲間同士の交流が希薄になったという課題も見えてきました。現在は目的別で班編成を行い、語り合い伝え合える集団づくりを目指しています。

質疑応答では、各事業所でどのような班編成を行っているか、またどういった目的で行っているかを報告していただきました。一人ひとりの発達や障害に合わせた作業内容を提供したり、自主性を持たせるためにリーダーを配置するなど様々な創意工夫がありました。

(2) 手と手（北海道）の神野さんより「いきいき働きながら工賃向上を図る取り組みについて」というテーマで、開所から今日に至るまでの就労保障と工賃向上についての報告や課題の提起がありました。仲間の特技を活かした作業や、一人ひとりが生き生き働けるように配慮しながら、自主製品の販売や委託販売、受託事業などを展開してきました。質疑応答では、仲間の高齢化や労働に対する目的の違いによって生まれる作業能率の差を工賃にも反映するべきかという課題が提起されました。

1. 実際に能力配分を実施している事業所では、5段階や10段階にランク付けされ、一定の評価基準（出勤数や作業効率）が定められたなかで能力評価をしているという報告がありました。しかし、一方では評価基準が定められていない、評価をする人材が不足しているなどの課題も挙げられました。

助言者の荒井さんからは、仲間のニーズは工賃に反映しなければモチベーションが維持できないこと、工賃だけではなく作業の質を向上させる必要があること、仲間と職員は財産であるという考えがブランドアップにつながるとアドバイスをいただきました。

(3) 第2あおぞら（京都）の高岡さんより「落ち着いて作業ができる環境づくり」というテーマで、周囲と上手くコミュニケーションがとれず孤立してしまう仲間への支援、役割を越えた職員集

団の在り方について報告や課題の提起がありました。質疑応答では、トラブルが絶えない仲間の思いを傾聴すること、話し合いの場を設けること、障害の理解と配慮を職員同士で共有することの大切さが挙げられました。

共同研究者の大畠さんからは、まずは話し合い、様々な見立てから考えること、一人でかかえこまずに集団で仲間を理解していくこと、支援者も環境の一部としてあたたかく見守ってほしいということ、仲間が安心できる居場所づくりを丁寧に支援してほしい、とアドバイスをいただきました。

3. まとめ

本分科会では、大きく2つのテーマで議論が進められました。「仕事や思いに見合った工賃保障」と「豊かに働く環境づくり」です。利用者の能力やコミュニケーションなど様々な悩みがありながらも、内面としっかり向き合えるような環境づくりに奮闘されている施設や事業所を垣間見ることができました。多様なコミュニケーションの先にあるやりがいや集団づくりの重要性を再確認しながら、仲間たちが豊かに働けるように、今後も実践と研究を重ねていく必要があることを確かめました。

最後に、中央省庁が障害者の雇用割合を水増ししていたことが明らかになり、厚生労働省が各省庁を再点検した結果、雇用した障害者の約半数を不正に算入していたことがわかりました。また、今年度の障害者サービスの報酬単価見直しで、B型事業所は、払っている工賃によって報酬単価を変え、7つの単価が生まれました。これは工賃が高いほど単価が高くなる仕組みです。この2つの出来事は、福祉や労働の中に成果主義の色が強くなっていると思われます。福祉制度においても障害者に働くことを保障することで、成人期の障害者の豊かな発達につながっています。私たちは、この分科会を、障害者の労働の向上と成人期の豊かな発達のためにも重要なテーマの分科会と考えています。しかし、参加者やレポート共に多数とは言えない状況が続いております。より多くの方々が関心を持ち、参加を呼び掛けていただける

ようお願い申し上げます。